

基本的な使い方

1. 音声ファイルを読み込む

まず最初に音声ファイルを読み込みます。
メニューの「ファイル」の「音声ファイルを読み込む」から音声ファイルを読み込むことができます。
エクスプローラーから音声ファイルをドラック&ドロップすることでも、音声ファイルの読み込みが可能です。

音声ファイルには、wav, mp3, wma が利用可能です。

2. 音声認識をおこなう

読み込んだ音声は、クリアで聞き取りやすい場合は、音声認識を行うことで書きおこしを効率化することが可能です。
メニューの「音声認識」の「音声を認識」から読み込んだ音声を認識して文字化することができます。

詳しくは [音声の認識](#) を参照してください。

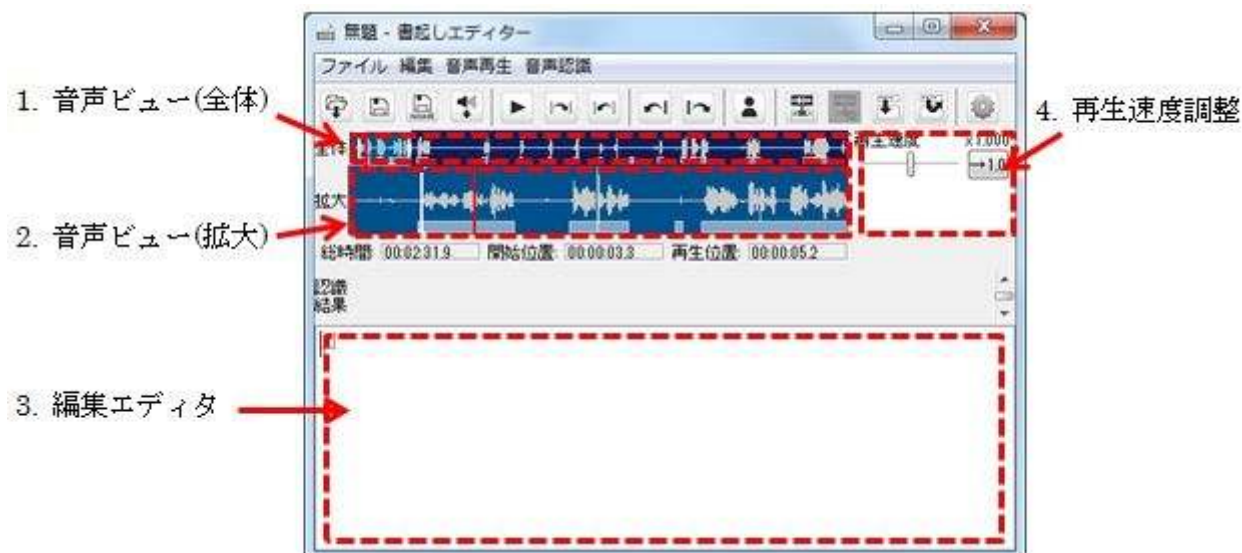
3. 音声を聞きながら入力作業を行う

読み込んだ音声を聞きながら、入力を行います。
音声の再生開始、および、停止は Control を押しながらスペースキーを押すことで可能です。
(メニューの「音声再生」の「再生/停止」や、ツールバーのボタンからも音声再生はできますが、入力作業を行うときは、Control+スペースで行うほうが効率的です)
音声の再生位置を移動は、Control を押しながら[←]または[→]で可能です。

詳しくは [音声の再生とテキスト入力](#) を参照してください。

音声の再生とテキスト入力

編集時に使用する部位の説明



1. 音声ビュー(全体)

音声全体の波形が表示されます。
白い枠で囲まれた部分が、直下の拡大ビューに表示されます。
マウスでドラッグすることで、拡大表示させる位置を移動させることができます。
マウスでクリックすると、音声の再生位置がクリックしたところに移動します。

2. 音声ビュー(拡大)

音声の全体ビューの白枠の範囲が拡大して表示されます。
マウスでクリックすると、音声の再生位置がクリックしたところに移動します。

3. 編集エディター

音声の内容やメモを記述するための入力エリアです。音声を聞きながら、この入力エリアにその内容を入力していきます。入力されたテキストに対して、元となった音声位置が自動的に対応づけられます。

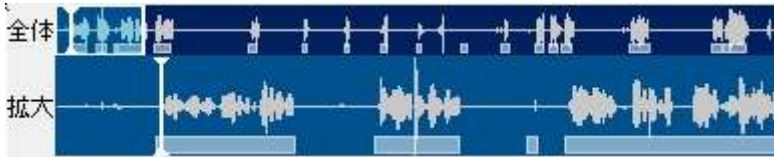
4. 再生速度調整

音声再生時の、再生速度を調節するところです。
再生速度を変更しても、音の高さは変化しません。

音声の再生

基本操作

Controlを押しながらスペースキーを押すことで、音声の再生/停止を行うことができます。
音声の再生位置は、音声ビュー上の白、または、赤い縦棒で示されます。



音声の再生位置を移動させるには、Controlを押しながら[←]または[→]を押します。

音声の再生位置と開始位置

音声の再生を行うと、白い縦棒(開始位置)はそのままで、再生中の音声位置を示す赤い縦棒(再生位置)が右に移動していきます。音声の再生を停止させると、再生位置の移動も停止します。



この状態で、テキストの入力を行うと、入力したテキストと、開始位置～再生位置の対応付けが行われます。対応付けされた範囲は、音声ビュー上で黄色いバーで表示されます。



テキストに音声位置が対応付けされると、caret(テキスト入力位置を示す黒い縦棒)がそのテ

キストに移動したときに、音声再生位置が対応付けられた位置に移動します。
(音声再生中は移動しません)

再生速度の変更

音声ビューの右側にある再生速度調整ボックスで、音声の再生速度を変更することができます。また、Control キーを押しながら[1]、[2]、[3]、[4]を押すと、再生速度を 1.0、1.5、2.0、0.75 倍になります。

※ テンキーの[1]、[2]、[3]、[4]ではなく、キーボード左上にある[1]～[4]です。



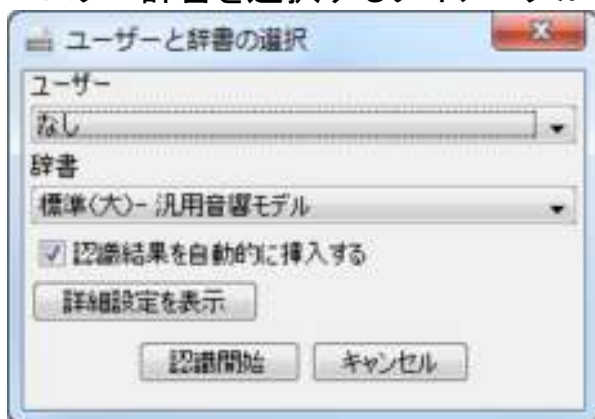
音声の認識

概要

読み込んだ音声は、比較的クリアな音声で丁寧に発話されたものである場合は、音声認識を使用して文字化を行うことで、入力作業を効率化することが可能です。

音声認識の開始方法

メニューの「音声認識」の「音声を認識」をクリックします。クリックすると、以下のようなユーザーとマスター辞書を選択するダイアログが表示されます。



ユーザーの選択

ユーザーの選択は、対象音声は1人だけの発話で、かつ、AmiVoice SP2 のユーザーと一致する場合には選択すると認識精度の向上が期待できます。それ以外の場合(複数の人が発話している場合等)は、「なし」を指定してください。

辞書の選択

マスター辞書は、対象音声はクリアでかつ丁寧な発話な場合は、大きい方の辞書を選択します。対象音声はクリアでない場合や丁寧な発話でない場合は、

- 早く結果が欲しい場合は「標準(小)」を選択
- 時間をかけてもいい場合は「標準(大)-汎用音響モデル」を選択

が推奨となります。

「認識結果を自動的に挿入する」チェックボックス

対象音声クリアでない、または、丁寧な発話でない等の理由で、高い認識精度が期待できない場合、「認識結果を自動的に挿入する」のチェックボックスをオフにすることを推奨します。

詳細設定を表示

[詳細設定](#)を表示します。

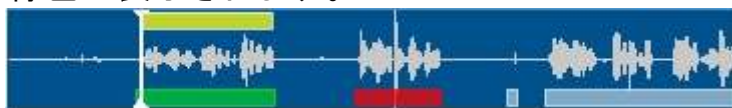
認識開始

「認識開始」ボタンを押すと、音声の認識が開始されます。

音声の認識中の表示

音声の認識はバックグラウンドで行われます。

現在、認識中の音声範囲が、音声ビュー上で、赤く表示されます。認識が完了した音声範囲は、緑色で表示されます。



音声の認識開始時のダイアログで、「認識結果を自動的に挿入する」のチェックボックスをオンにした場合、認識が完了したところから順次、入力エリアの末尾に認識結果が追記されていきます。

認識中でも、入力エリアのテキストの編集は可能です。

ただし、「認識結果を自動的に挿入する」チェックボックスをオンにして認識を開始した場合、認識中は「元に戻す」「やり直し」機能は使用できません。

認識結果の利用方法

認識結果の自動挿入をオンにした場合

挿入された認識結果にキャレット(編集位置を示す黒い縦棒)を移動させると、音声再生位置が対応する位置に移動します。対応する音声を再生させ、認識が間違っている箇所を修正してください。

認識結果の自動挿入をオフにした場合

音声ビューの再生開始位置(白い縦棒)が音声認識された範囲にあるとき、「認識結果」表示のところに認識結果が表示されます。



音声を再生させ、正しいか間違っているかを確認します。
 認識結果の反転表示されている単語(上の図では「平成」)が正しい場合、Controlキーを押しながら[I]キーを押して、認識結果の1単語を挿入します。

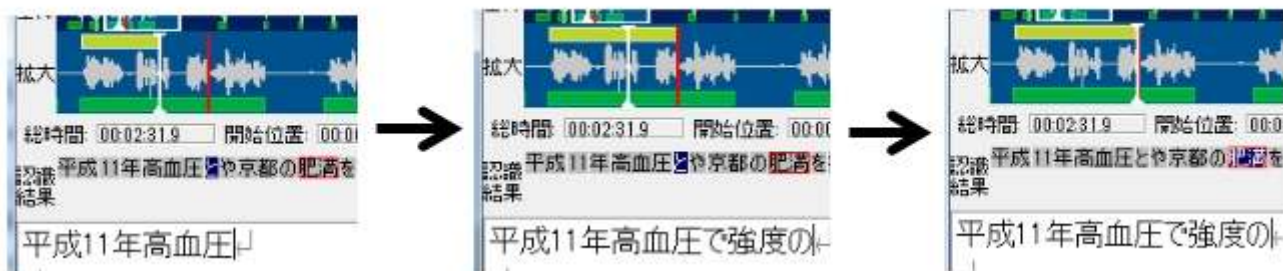


Control+I で認識結果1単語を挿入すると、次の単語が反転表示されるので、音声を聞きながら
 順次1単語ずつ認識結果を Control+I で挿入していきます。

認識が間違っている場合は、キーボードで正しい単語を入力し、Control+O で反転表示を次に移動のみを行います。

正しい内容を入力

Control+O で単語を移動



詳細設定

「詳細設定を表示」ボタンによって認識に関するのより詳細な設定を行うことができます。設定項目には以下のものがあります。

- 選択ユーザーの音響学習を利用する
 この設定のチェックボックスを外すと、選択したユーザーの登録単語のみが使用され、音響学習の結果は使用されません。
 ※ ユーザー選択で「なし」以外が選択されているときのみ有効となります。

- 音響学習をおこないながら認識する
音声認識時に、ある一定期間ごとに音響学習をおこないます。
対象音声によっては、後半の音声の認識精度が向上します。
- 2パス認識をおこなう
一度、音響学習のために認識をおこない音響学習をおこなってから、もう一度、認識をおこないます。
この設定のチェックボックスをオンにすると、音声の後半だけでなく、前半の音声にも音響学習の効果が適用されます。



話者名の入力

概要

会議などの音声を書きおこす場合、下記のように発言ごとに発言者名を記入するケースがあります。

[佐藤] これから会議を始めます。
[田中] よろしくお願ひします。
[渡辺] 今日の議題は何ですか？

ここでは、上記のような発話者の入力を支援するための機能について説明します。

話者名の入力の開始

[F5]キーを押すと、現在編集集中の行の先頭に、話者名を入力するためのエリアが挿入され入力エリアに編集位置が移動します。

既に入力エリアが存在する場合は、入力エリアへの移動のみが行われます。



入力エリアに移動後、話者名の入力、または、編集を行います。
話者名入力エリア内で [Enter]キーを押すと、編集位置が行末に移動します。

リストからの選択による話者名の入力

入力した話者名が2人以上になると [F5]キーを押したとき、話者名の入力エリアへの移動とともに、これまで入力した話者の一覧がポップアップで表示されるようになります。
一覧の中に入力したい話者名が存在する場合は、[↓][↑]で一覧から選択して入力することができます。一覧の中に入力したい話者名が存在しない場合は、通常通りキーボードで話者名を入力してください。

総時間: 00:02:31.9 開始位置: 00:00:03.0 再生位置: 00

認識
結果

[佐藤] これから会議を始めます。↓

[田中] よろしくお願ひします。↓

□ 今日の議題は何ですか？ ↓

佐藤

田中